

第7分科会<研究課題> 家庭・地域社会の教育力を生かし、共に新しい学校づくりを目指す連携と  
校長の在り方

研究発表： 学校・家庭・地域社会の教育力を高め合う連携の充実

岩手県 宮古市 藤原小学校 篠 透

## 趣 旨

現代社会において我々の生活環境は、都市化、核家族化、少子化を背景に、家庭・地域の教育力の低下をもたらし、いじめや不登校の増加、少年非行の凶悪化、学級崩壊等、自己中心的で欲望と衝動をおさえられない子どもたちをつくり出している。

このような状況にあって、「確かな力」と「豊かな心」を持った逞しい人間の育成は大きな課題である。この課題を解決するために、学校が中心となり、それぞれの教育力の向上に向けて、その役割を果たさなければならない。

本研究では、教育力を構成する機能を明らかにし、それぞれの教育の充実・向上を図っていくための様々な取り組みや展開の在り方、校長の在り方について、地域の 実情に合わせた実践を通して明らかにしたい。

## 研究の概要

### 1 研究のねらい

子どもたちの健全育成を阻害する壁はあまりにも高いが、今こそ、着実に新しい学校づくりと、家庭・地域の教育力向上を図っていかなければならない。そのために、今一番必要なものは、連携する中で、家庭・地域が一つの行動・働きかけの意義を理解し、信念を持って行う力・姿勢である。また、学校においては、連携を進める中で「確かな力」と「豊かな心」の教育のバランスに留意しながら、それぞれの教育をさらに充実させていかなければならない。

- (1) 家庭や地域の持つ教育力を高めるための、学校の働きかけの在り方を探る。
- (2) 学校と家庭・地域との連携を図り、学校教育を充実させるための、学校の働きかけを探る。
- (3) 家庭・地域の連携の中で、それぞれの教育の充実・向上を図っていくための校長の在り方を探る。

### 2 研究の概要

#### (1) 家庭や地域社会の教育機能

生涯学習体系の中において、家庭・地域が回復していかなければならない力は、学校教育の「教える手法」では無く、一つ一つの行動・働きかけの意義を理解し、信念を持って行う力・姿勢である。その課題の解決、また、学校教育の充実を図るためにも、教育力を構成するそれぞれの機能を明確にし、その機能を意識しながら、充実した連携を進めなければならない。そこで、その機能を次の3つの観点で考え、15項目にまとめた。

コミュニティとしての家庭・地域に関わる中で

- ア 基本的な生活習慣（食事・睡眠・排泄・着脱衣・清潔等）・生活能力（マナーの基礎）を育む機能
- イ 信頼関係（親子等）を基盤に豊かな情操、思いやり、善悪の判断を育む機能
- ウ 人格の尊重や感謝と思いやりの心を育む機能
- エ 役割・責任・協調性を育む機能
- オ 自己決定力や実践意欲を育む機能
- カ 主体性及び自立心・自律心を育む機能
- キ 様々な体験活動を通して、注意力・判断力と自発的興味を育む機能
- ク 対人行動や社会的技能等、社会性を育む機能
- ケ 忍耐強さや困難に耐える力等、精神的な逞しさを育む機能

文化環境としての家庭・地域に関わる中で

- ア 生活文化（行事・しきたり・生活の知恵等）伝承を行う機能
- イ 謙虚に他に学ぶ広い心を育む機能
- ウ 公共心や社会的規範を育む機能
- エ 自分の住む地域への愛着と誇りを育む機能

自然環境としての家庭・地域に関わる中で

- ア 自然に対する興味関心、理解を深め、自然を愛護しようとする実践力を育む機能
- イ 自然の理解を深める中で、畏敬の念と共に生命の大切さや尊さを育む機能

#### (2) 研究の内容と方法

学校・家庭・地域の双方向性のある連携の実現のため

めには、開かれた学校づくりを推進する中で、家庭・地域に働きかけ、それぞれの教育力を形成し、互いに役割を發揮しあう対等な関係を目指さなければならない。今までの反省も踏まえながら、「家庭や地域の教育の充実」と「連携による学校教育の充実」の二面から、本研究を進めた。

#### 内容

- ア 家庭や地域の持つ教育力を高めるための学校の働きかけの在り方
- (ア) 家庭・地域・学校の役割についての理解を図ることをねらいとして
- (イ) 「地域の子は地域で育てる」気運を盛り上げることをねらいとして
- イ 学校と地域・家庭との連携を図り、学校教育を充実させるための、学校の働きかけの在り方
- (ア) 学校の役割等についての理解を図ることをねらいとして
- (イ) 家庭・地域の教育力を学校教育に生かすことをねらいとして

#### 方法

各部員の主題に沿った実践による

#### (3) 研究の計画

##### 第1年次（平成14年度）

・ 研究主題の設定 「連携」に関わる各学校の実態に即した実践 ・ 課題の焦点化と研究の方向性

##### 第2年次（平成15年度）

・ 研究の方向性の確認と実践（意図的な情報発信、学校教育活動のさらなる公開の工夫、教育機能の見直しとねらいを明確にした連携の推進、「共に子どもを育てる」という共通意識を生む連携の工夫）

##### 第3年次（平成16年度）

・ 15年度の反省を生かした実践の推進 ・ 実践と評価を生かした分析と考察（反省）  
・ 研究のまとめ

#### (4) 研究推進構想図

別紙資料

#### (5) 研究の実践

本年度の研究推進構想に基づいて、各校が次の視点でそれぞれの地域の実態に即して実践を行った。

家庭・地域の持つ教育力を高め、充実させるための学校の働きかけはどうか

ア 家庭・地域・学校の役割についての理解を図ることをねらいとして

##### 《A校の場合》

###### (ア) 主な実践

- ・ 家庭・地域・学校を結ぶ校報の発行 計画的な発行
- ・ 地域で育った「藤原若潮太鼓」を取り入れ

た教育 地域行事へ積極的参加

・ 「ほたるコンサート」への参加 地域行事、環境教育、交流

・ 学校区各自治会代表並びに児童民生委員との合同懇談会の実施

###### (イ) 校長のかかわりと留意した点

- ・ 校報発行の意図の明確化と計画性、全戸配布による地域への働きかけ
- ・ 地域活動指導者とそれぞれの役割の理解を図る。（指導者とのかかわりの重視）
- ・ 職員間での打ち合わせで意義やねらいを明確化しての対外的（地域）な行事への対応

##### 《B校の場合》

###### (ア) 主な実践

- ・ 情報の発信 諸通信、様々な場で
- ・ 情報の収集 懇談会等
- ・ 地域との交流
- ・ 地域の人材活用 教科、総合学習

###### (イ) 校長のかかわりと留意した点

- ・ 保護者が参加する各種行事での情報発信と情報提供の呼びかけ
- ・ 各自治会長との日常の情報交換

##### 《C校の場合》

###### (ア) 主な実践

- ・ 稲作体験活動 ふれあいと地域産業の理解
- ・ 地域の話聞く会 郷土理解
- ・ 伝承芸能活動（鶏舞）
- ・ 収穫祭 取り組みの成果の発表
- ・ 五輪運動 地域と一体となった活動

###### (イ) 校長のかかわりと留意した点

- ・ 地域の教育資源の活用と地域の人材の発掘や調整
- ・ 地域からの情報収集
- ・ 教職員の意識の高揚と共通理解

イ 「地域の子どもは地域で育てる」気運を盛り上げることをねらいとして

##### 《D校の場合》

###### (ア) 主な実践

- ・ 教職員の意識改革で地域参加型教師に教員間での共通確認
- ・ 学校教育の現状説明と理解促進 校長が担当して啓発型の通信へ
- ・ 学校と家庭・地域が共通に子育てをしているという連携意識の醸成 学校評価の試み

###### (イ) 校長のかかわりと留意した点

- ・ 教育効果をあげるため、校長が率先垂範し、家庭も地域も視野に入れて働きかけることが大切であることを意識させ、その必要性を説

くようにした。

#### 《E校の場合》

##### (ア) 主な実践

- ・ 家庭・地域の教育力向上のための啓発活動  
諸通信の充実、PTA役員との意見交流
- ・ 家庭・地域との連携の維持・充実と工夫・  
発展 意味付けと工夫

##### (イ) 校長のかかわりと留意した点

- ・ 学校と地域・PTA・諸機関・諸団体等との  
関わりの中で、パイプ役、そして、潤滑油  
(地域の特色を生かした行事の教育課程への  
位置づけ、実践において教職員と地域との  
連絡調整と共通理解との積極的な関わり、  
成果や課題の確認)

- ・ 学校通信等での地区民への情報提供、働き  
かけ、意見交流

学校教育活動に家庭や地域のもつ教育力を取り入れ、学校教育を充実させるための学校の働きかけはどうあればよいか

ア 学校の役割等についての理解を図ることをねらいとして

#### 《F校の場合》

##### (ア) 主な実践

- ・ PTA総会で経営方針を説明するとともに、  
学校要覧を全家庭に配布し、どのような子ども  
の育成を目指しているかを明らかにする。  
誇れる子どもづくり
- ・ 学校経営の柱の一つに健康教育を掲げ、体  
力づくり、う歯予防、生活習慣病予防、性指  
導、食事指導を系統的に指導し健康で逞しく  
生きるための基礎を培う。
- ・ 地域やその他の行事で、子どもが活躍でき  
るところに積極的に参加させ、社会体験させ  
る。
- ・ 父母や地域との連携 様々な取り組みで地  
域の中でのつながりを深める。

##### (イ) 校長のかかわりと留意した点

- ・ 明確なビジョンと連携のためのプロデュー  
サーとしての役割

#### 《G校の場合》

##### (ア) 主な実践

- ・ 懇談会開催と校報の全戸配布
- ・ 保護者に対する満足度調査の実施  
経営や指導の改善
- ・ 研究授業への保護者や地区民等の招待
- ・ 地域行事への積極的な参加
- ・ 日常から出会う機会の拡大
- ・ 変わる教育の認知拡大と日常での学校の熱

意・姿勢の伝達

- ・ 校長のパフォーマンスを高める

##### (イ) 校長のかかわりと留意した点

- ・ 校長の前向きで明確な姿勢
- ・ 血の通った心のこもった取り組み、
- ・ 障壁に負けない元気さ
- ・ できること、できないこと、なすべきこ  
とを明確に示す
- ・ 自ら切り開き、方向を指し示す気迫
- ・ 学校からの情報発信だけでなく、親の思いを  
職員に伝えるとともに、分かり合うことを基  
調とした連携
- ・ 地域環境にあった、自分の持ち味を生かし  
た学校経営

イ 家庭・地域の教育力を学校教育に生かすことを  
ねらいとして

#### 《H校の場合》

##### (ア) 主な実践 家庭・地域の教育力を生かすため の取り組みの推進

- ・ 郷土芸能・地域文化の伝承活動
- ・ 資源回収活動(リサイクル活動)・環境保  
全活動
- ・ 福祉・ボランティア活動
- ・ 挨拶運動
- ・ 総合的な学習の時間(地域ティーチャー・  
体験活動)

##### (イ) 校長のかかわりと留意した点

- ・ 三者の連絡調整
- ・ 人材マップの作成
- ・ 分掌組織を生かした連携の追求と積極的な  
指導助言

#### 《I校の場合》

##### (ア) 主な実践

- ・ 学力向上の土台づくりとして、基本的生活  
習慣の定着、生活能力づくり  
(基本的生活習慣の定着を目指した取り組み、  
地域に開く学校評価のあり方)
- ・ 特色ある学校づくりにつながる実践  
(地域の特色を生かし、海の恵みを実感させ  
る実践、学校・家庭・地域が一体となった  
実践)

##### (イ) 校長のかかわりと留意した点

- ・ 学校の願いや健康生活や家庭生活アンケート  
調査等の結果の情報発信による家庭や地域  
の果たすべき役割の理解
- ・ 職員の積極的な地域行事への参加。、そし  
て、家庭・地域の願いや要望等の把握と教育  
活動への反映

・ 学校保健委員会による子どもの健康づくり  
《J校の場合》

(7) 主な実践

- ・ 児童会活動の重視 体験活動の充実  
(高齢者との交流会、サツマイモ栽培、前刈山に登る会、毛筆に慣れる時間)
- ・ 家庭・地域の教育力を学習に活用する実践  
地域の良さを感じとらせる  
(国語 毛筆書写、生活科 山や川での遊び・伝統遊び、社会 地域の歴史・戦争体験を聞く・税について、家庭 郷土食づくり、総合 環境学習、PTA活動 校歌に謳われている山への登山・釣り大会 等)

(4) 校長のかかわりと留意した点

- ・ 子どもに培いたい資質や能力に関わって、教育課程に「体験を増す活動・環境を活用する学習」を位置づけること
- ・ 自分達の望む教育活動を行うために、意図を父母に伝え、理解を得る手立てをとること
- ・ 親と教師が気軽に声を掛け合う間柄をつくるために、一緒にできる活動を計画し進めること PTA活動の重視とその充実

## ま と め

### 1 成果と課題

学校と家庭・地域との連携を図り、学校教育を充実させるための取り組みは、家庭や地域の持つ教育力を高めることにもつながっていくことを実感したので、ここでは両者の取り組みを分けず、いままでの実践の感想を述べ、成果と課題としたい。

(1) 家庭や地域の持つ教育力を高めるための、学校の働きかけ、学校と家庭・地域との連携を図り学校教育を充実させるための、学校の働きかけに関わって

学校・家庭・地域の教育機能は、それぞれの手法が違うだけで求めるものは共通している。連携に当たっては、機能を分けて考えるのではなく、その機能を意識しながら、その実現に向けて、それぞれの手法で努力することが大切であるという認識を得られた。

学校理解のための広報については、「良くなった点・改善された点」「感謝の気持ち」「共に育てる」等を中心に据えながら、教育機能を意識した中でその発行意図を再度確認し、より工夫・充実していかなければならない。

家庭・地域の教育力を生かす場面が、総合的な学

習の時間が主だったが、教科指導においても人材活用が積極的に行われるようになってきた。今後、家庭・地域の教育力をよりさまざまな場面で生かす実践を進めて行くことは、学校教育の充実にも、また、より深い学校理解にも繋がっていくものと考えられる。今後も、さらに充実・発展させていかなければならない。

外部評価については、どの学校においてもその実践が課題であるが、各校の地域の実態も踏まえ、学校に対する要望をどう吸い上げるか、そしてどう生かすか、さらに研究を深めて行かなければならない。

(2) 連携の中で家庭・地域・学校教育の充実・向上を図っていくための校長のあり方に関わって

連携を進めるに当たって一番大事にすべきことは、校長がゆるぎない理念と信念を持って実践し続ける姿勢であることを再認識した。また、校長として、今後も外部に出向いて情報を発信・受信する姿勢は大事にしていかなければならない。

連携の視点として、外部団体・公民館等の公共施設・地域との意見交換や打ち合わせの充実とともに、学校として外部の行事にどのようなねらいをもって協力していくかを明確にすることが大切である、さらに、連携を進める上で、職員の地域活動への意義等の理解(意識改革)と参加体制づくりが大きな課題である。

連携の一步は、地域への相談(情報発信)である。時間はかかるが、校長として先を見て、計画的に学校の教育的ねらいを説明しながら協力を得ていくやり方は、連携に広がりが出てくることを実感した。また、そのやり方が校長の思いを理解してくれ、広げてくれる人材をつくることにもつながると実感できた。

### 2 おわりに

それぞれの地域の実情に合わせた様々な実践の交流、意見交換によって、自校の実践を客観的に振り返る機会となり、それぞれの学校でその成果と課題が見えてきたことは何よりの成果であった。

今後の充実した取り組みのためにも、実践の交流、意見交換を大事にしていきたい。